

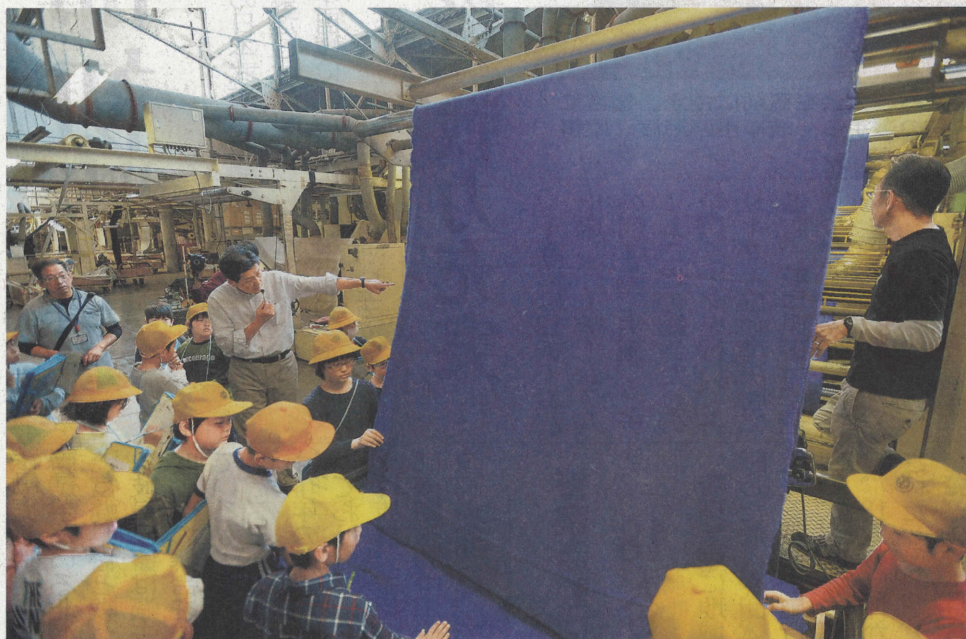
足近小児童が毛織物加工場訪問

羽島市足近町、足近小学校の3年生42人が17日、地場産業である市内の毛織物加工場などを見学し、洋服の生地が作られる過程や働く人の思いを学んだ。
(亀山大樹)

同市や愛知県一宮市に広がる国内最大の毛織物産地「尾州」の製造現場を知ってもらおうと実施。服飾専門学校生らの工場見学を受け入れている羽島市の県毛織工業組合によると、市内の小学生が見学を行うのは今回が初めてという。

児童は、服地を製造・販売する一宮市の葛利毛織工業や、羽島市のテキスタイルマテリアルセンターなどを訪れた。同市正木町不破一色の三星染整では、従業員の手で、服地の染色や起毛などの加工に加え、検品を終えて縫製工場などに卸す製品にするまでの工程を見学。さまざまな加工に対応するため、100台以上の機械をラインで連結せず、独立して設置してあるこ

地場産業を見て、触れて



服の生地が作られる現場を見学する児童たち＝羽島市正木町不破一色

服地の染色など見学

などを学んだ。村端出帆君は「加工する前

滑らかにって驚いた」、安田杏菜さんは「みんなが喜ぶものを作りたいと思って働いていることを知った」と話していた。